

国立大学協会  
平成24年度 大学マネジメントセミナー【教育編】

# 大学の国際化における 教育の質向上と成績制度改革

松塚ゆかり

(一橋大学・大学教育研究開発センター)

2012年11月12日(月)

学術総合センター 一橋講堂

# 高等教育を囲むマクロ環境

- 高等教育へのユニバーサルアクセス
- 少子化に伴う学生人口の減少
- 高等教育予算の縮減
- 高等教育費用の上昇
- 規制緩和と民営化
- 高等教育市場の国際化

# その結果として・・・

- グローバルに拡大する大学間競争
- 可動性（モビリティ）の向上
- 質保証の要求
- アカウンタビリティ強化の要請
- 基準もしくは「レファレンス・ポイント」の要求
- de fact standardの表出
- 機能別分化の推進

⇒「国際化」「質向上」「特徴強化」

「国際化」「質向上」「特徴強化」を可能とする  
発展的ソリューションとしての、

I GPA制度

II 機関教育調査研究

(IR: Institutional Research)

III チューニング (Tuning)

IV 「GPA」「IR」「チューニング」

三者間の連動

# I 一橋大学のGPA制度

## 制度の概要

### 目的

- ◆ 在学生の履修行動と学習態度を適正に保つ
- ◆ 留年者や成績不振者の早期把握と学修改善
- ◆ 卒業生の質を保証し社会に対する説明責任をはたす
- ◆ 大学の国際化に対応する

### GPA値の計算式

$$\frac{A\text{単位数} \times 4 + B\text{単位数} \times 3 + C\text{単位数} \times 2 + D\text{単位数} \times 1}{\text{総履修登録単位数}}$$

総履修登録単位数

A: 極めて優秀、B: 優秀、C: 望ましい水準に達している、D: 望ましい水準には不十分だが不合格ではない、F: 落第、E: 合格(ゼミナール他、GPA対象外科目)

- \* ゼミナール等の5段階評価対象外科目は、計算式に算入しない
- \* 総履修登録単位数にはFを含む

# I 一橋大学のGPA制度

## 制度導入の過程

- |          |  |
|----------|--|
| 1999年4月  | キャップ制導入(履修登録50単位を上限に)  |
| 2003年4月  | 成績評価基準を4段階から5段階へ切り替え<br>最上位グレードガイドラインの実施                               |
| 2006年4月  | Webシラバスにより授業方法、成績評価基準等の公開  |
| 2007年1月  | GPA制度検討委員会最終報告、ロードマップの提示   |
| 2007年4月  | 成績説明請求制度導入<br>統計データの蓄積と分析を行い、制度の評価システムを構築                              |
| 2008年4月  | GPA計算式の公式化と成績表への記載<br>「-」、「F」の「F」への統一、W(履修登録撤回)の実施<br>低GPA取得者への学習支援の試行 |
| 2010年4月  | GPAの卒業要件化(1年次からの学年進行)  |
| 2012年10月 | アカデミック・プランニングセンター(APLAC)始動   |
| 2014年3月  | 卒業要件として適用(判定)  |

# I 一橋大学のGPA制度

## 卒業要件値としてのGPA

従来の卒業要件(総単位数144単位)に加えて卒業時に累積GPA値 2.00以上を卒業要件とする。ただし、導入期は経過措置として1.80以上とする。

### 支える制度:

#### ■成績評価の厳格化

放棄(-)と不合格(F)を不合格(F)に統一する。

■履修撤回(W)の導入。登録科目の日程が2/3進行するまでに履修を放棄することができる(総履修登録単位数に加算されない)。

■既単位取得科目の再履修を認める(再履修で取得した成績が、既取得成績に上書きされる)。

■成績説明請求・成績説明再請求制度(従来の教員個別対応から教務課を通じた文書対応へ)。

# I 一橋大学のGPA制度

## 制度管理・運用・活用

### ■ 支援体制の強化と教学状況の把握

低GPA者支援学習指導部会

GPA実情調査検討作業部会

⇒ APLACへの移行

### ■ 修学インセンティブへの活用

奨学金、留学支援対象者選定の基礎資料として

### ■ 教授会での定期的報告、全学FD、部局別FDの開催

### ■ 成績分布の公表

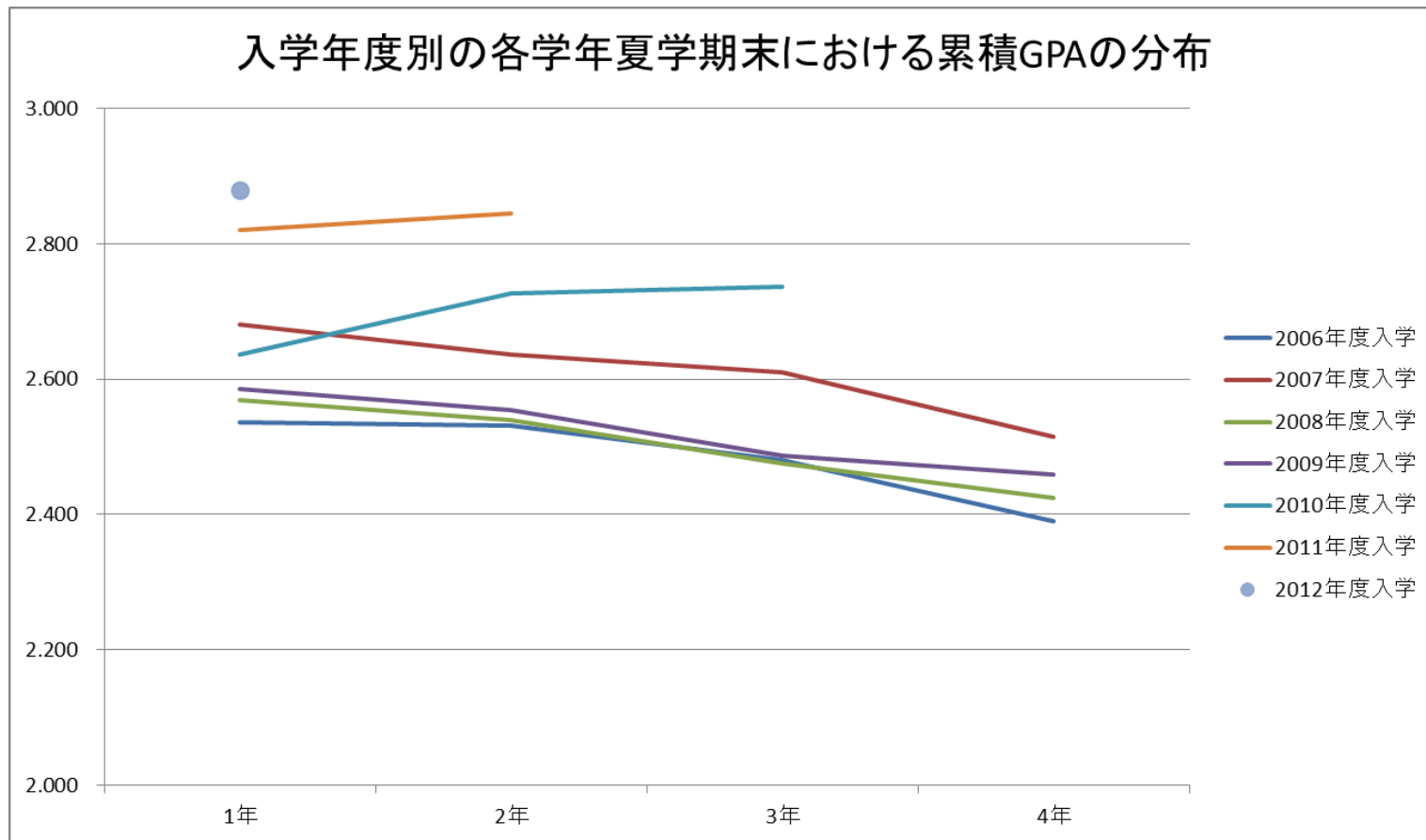
### ■ IR

### ■ チューニング



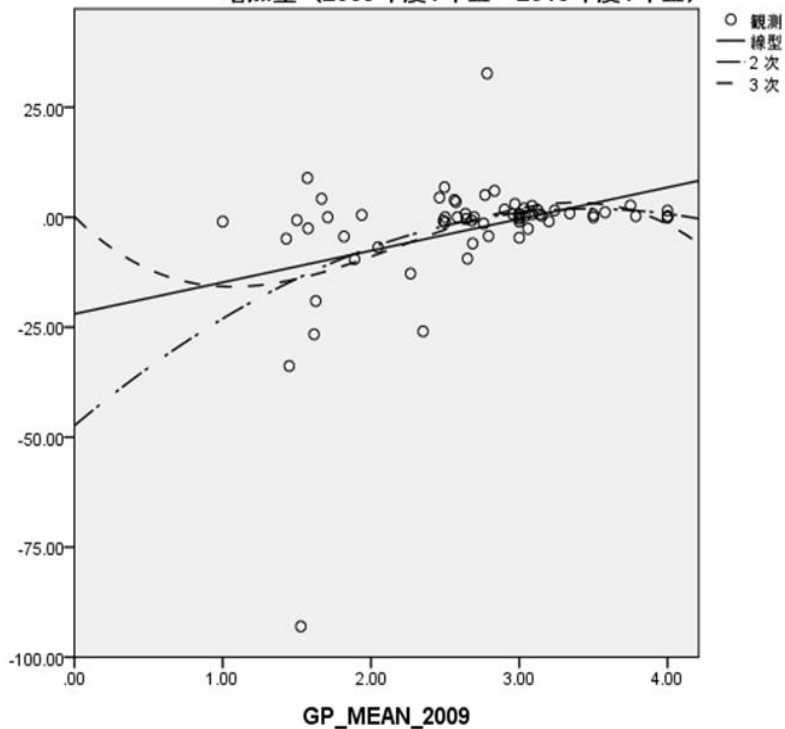
# I 一橋大学のGPA制度

## 制度のインパクト

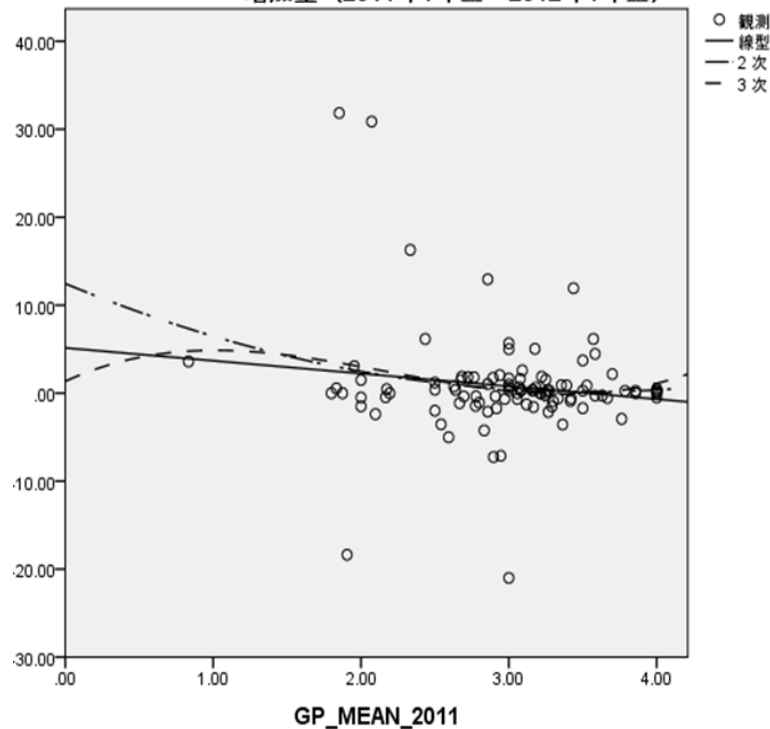


# I 一橋大学のGPA制度 制度のインパクト

増加量 (2009年度1年生→2010年度1年生)



増加量 (2011年1年生→2012年1年生)



# I 一橋大学のGPA制度

## 制度のインパクト

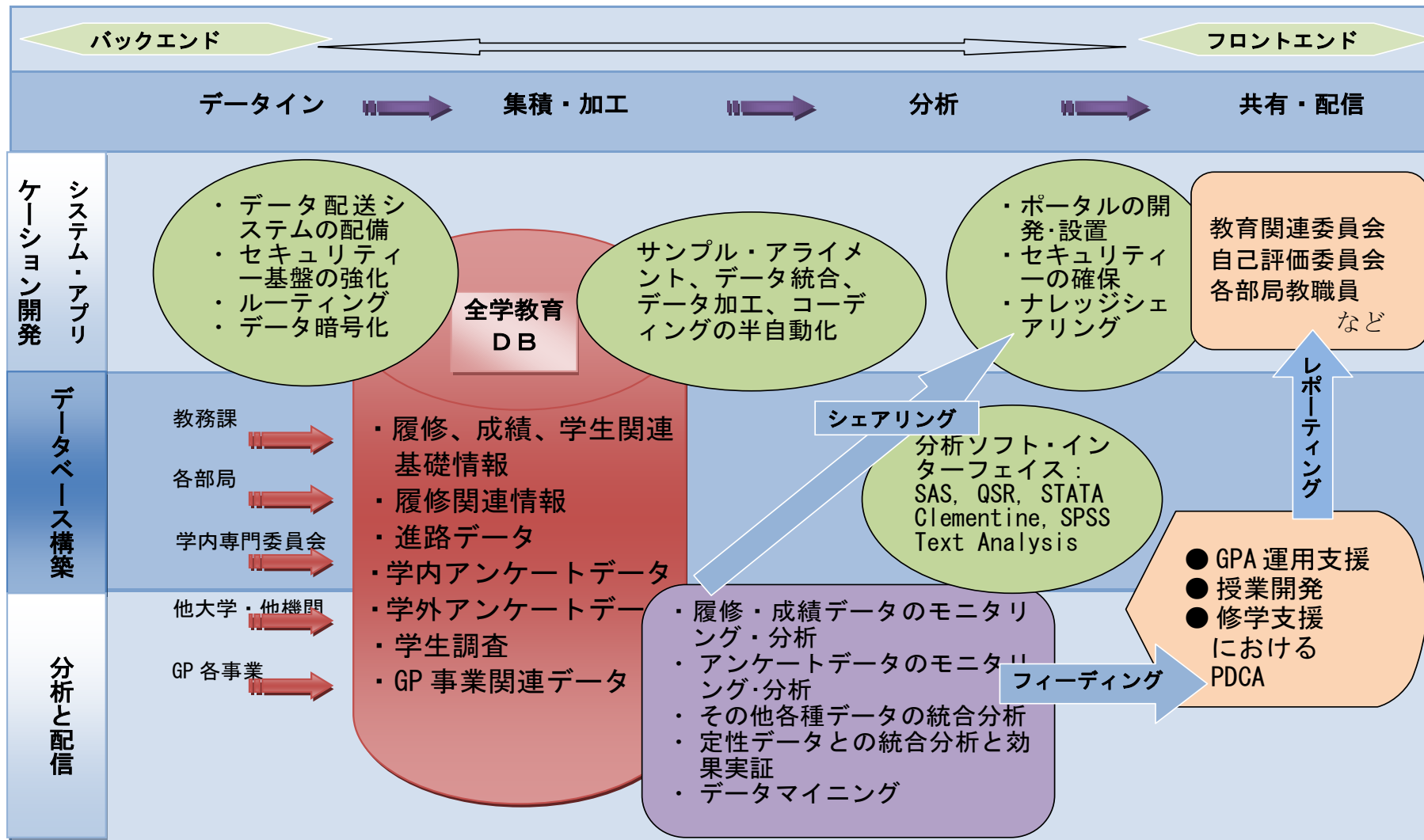
		全体	
		2010年度	2011年度
Q1*平均GP	Cor.	.338**	.426**
	N	628	604
Q2*平均GP	Cor.	.406**	.503**
	N	628	604
Q3*平均GP	Cor.	.121**	.175**
	N	628	604
Q4*平均GP	Cor.	.288**	.346**
	N	628	604
Q5*平均GP	Cor.	.189**	.219**
	N	628	604
Q6*平均GP	Cor.	.256**	.292**
	N	628	604
Q7*平均GP	Cor.	.177**	.244**
	N	628	604
Q8*平均GP	Cor.	.414**	.429**
	N	628	604
Q9*平均GP	Cor.	.344**	.356**
	N	628	604
Q10*平均GP	Cor.	.224**	.284**
	N	628	604

質問項目
Q1 この授業の学習に意欲的に取り組みましたか？
Q2 あなたの授業への出席率ほどの程度でしたか？
Q3 1回の授業に対して、平均してどのくらいの授業外学習を行いましたか？
Q4 授業のねらいや学習目標は明確に理解できましたか？
Q5 成績評価の方法と基準は明確に理解できましたか？
Q6 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか？
Q7 授業に対する教員の熱意を感じましたか？
Q8 授業の内容は理解できましたか？
Q9 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか？
Q10 この授業の受講はあなたにとって意義のあるものでしたか？

\*\* . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

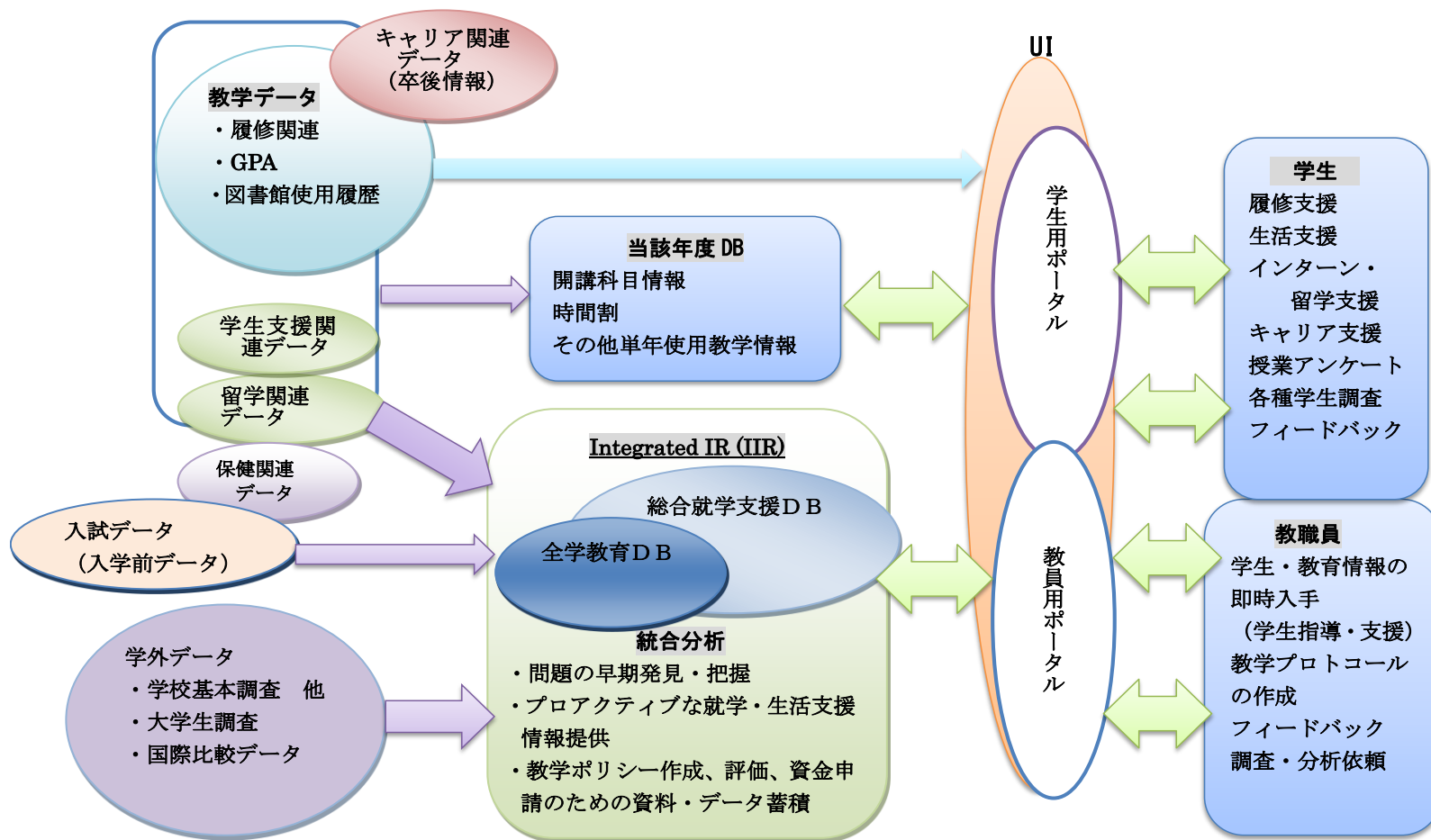
\* . 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

# Ⅱ 一橋大学のIR – 1st Phase

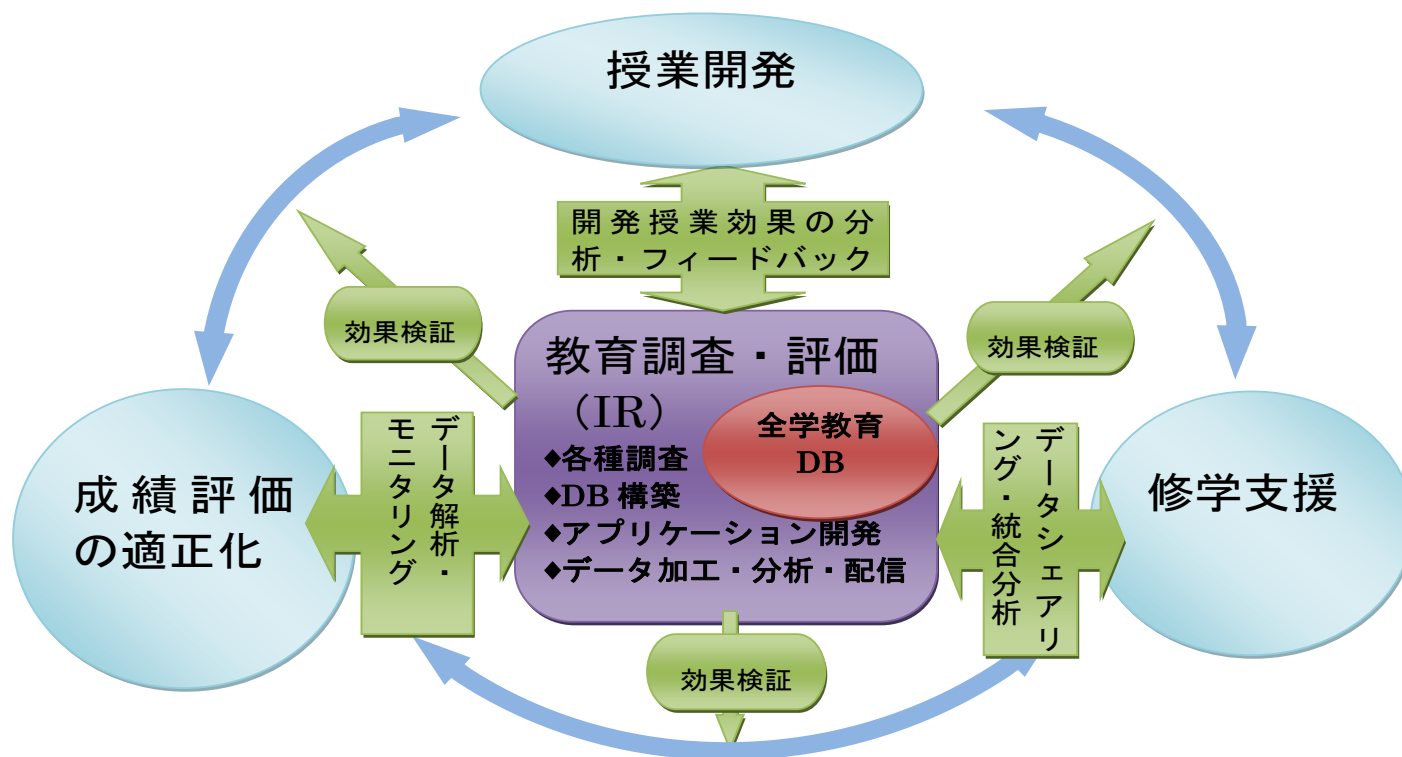


# Ⅱ 一橋大学のIR – 2<sup>nd</sup> Phase

## 教育と支援のための統合 IR (IIR)



## Ⅱ 一橋大学のIR —カタリストとしてのIR



文部科学省平成22年度大学教育・学生支援推進事業採択プログラム  
 ⇒ 平成24年度一橋大学・大学戦略推進プロジェクト  
 「単位実質化マキシマムモデルの実践と普及—カタリストとしてのIR」

## アカデミック・プランニング・センター

平成24年度事業

### 1) 学修コンシェルジュ

- ・履修・成績情報ポータル
- ・コンシェルジュ・サービス

### 2) 学修サポート

- ・学修相談
- ・学修リソース活用：授業
- ・メンタル・ケア／生活指導
- ・リサーチ&ライティング・スキル

### 3) IR

- ・学修基盤データベース整備
- ・「教育の質」調査
- ・学生調査 as 学修環境評価

#### スタッフ

- ・教員：3～5
- ・職員：3～4
- ・学修支援カウンセラー：2～3
- ・PD/DCチューター：5～10
- ・ピア・サポーター：10～20

#### ☑ コンシェルジュのインタフェイス設計

- ☺ 教務課窓口の実情&ニーズ調査
- ☺ 対面&オンラインのインタフェイス設計

#### ☑ 学修サポートの態勢作りと実践

- ☺ 低GPA者対応の推進
  - ・重点課題：前期課程残留者ケア [40人]
  - ・メンタル・ケア/生活指導 [継続=55人, 新規=40人?]
  - ・低GPA者向け講習 [2年=100人, 1年=100人?]

#### ☺ 学修相談・指導の方法開発

#### ☑ 学修基盤データベースの整備

- ☺ 教務データベースの再設計
- ☺ 新学生調査の試行 (+学生支援課)

- 教員による学修相談
- チューター&サポーターによる支援

- 教員：2
- 職員：1 (コンシェルジュ候補)
- 学修支援カウンセラー：2
- PD/DCチューター：5
- ピア・サポーター：10

平成24年度一橋大学・大学戦略推進プロジェクト

# アカデミック・プランニング・センター (APLAC)

— 自律的学修を支援・促進する全学的基盤の整備 —

## 教育調査・評価 (IR)

- ・学修基盤データベース整備
- ・「教育の質」調査
- ・学生調査 as 学修環境評価  
→ すべて学生にフィードバック

- ・5年一貫プログラム進学
- ・GPA上位10%表彰

卒業

## APLAC

全学的・独立的な学修  
支援・促進セクション。  
学生の自律的学修  
(PDCA)と各学部・教員  
の指導をサポート。



- ・履修・学修情報ポータル
- ・コンシェルジュ・サービス
- ・学修情報リテラシーサポート

学修コンシェルジュ



## 学修サポート

- ・学修相談
- ・学修リソース活用: 授業
- ・メンタル・ケア / 生活指導
- ・リサーチ & ライティング・スキル



学生支援課  
(経済支援)



入学



保健センター



学生相談室



キャリア支援室





# Ⅲ 一橋大学のチューニング

## チューニングとは

### チューニング

課程、コース、教科等の到達目標、学習成果、養成されるコンピテンス、教育に必要な物的・人的資源等を定義し、大学間で共有して、単位及び学位の互換性、比較可能性、相互認証性を高めること

### 世界的展開

- 2000年 Tuning Educational Structure in Europe
- 2004年 Tuning Latin America
- 2008年 Tuning USA
- 2010年 Tuning Russia
- 2011年 Tuning Australia, Tuning Africa
- 2012年 Tuning Canada, Tuning AHELO

## Ⅲ 一橋大学のチューニング

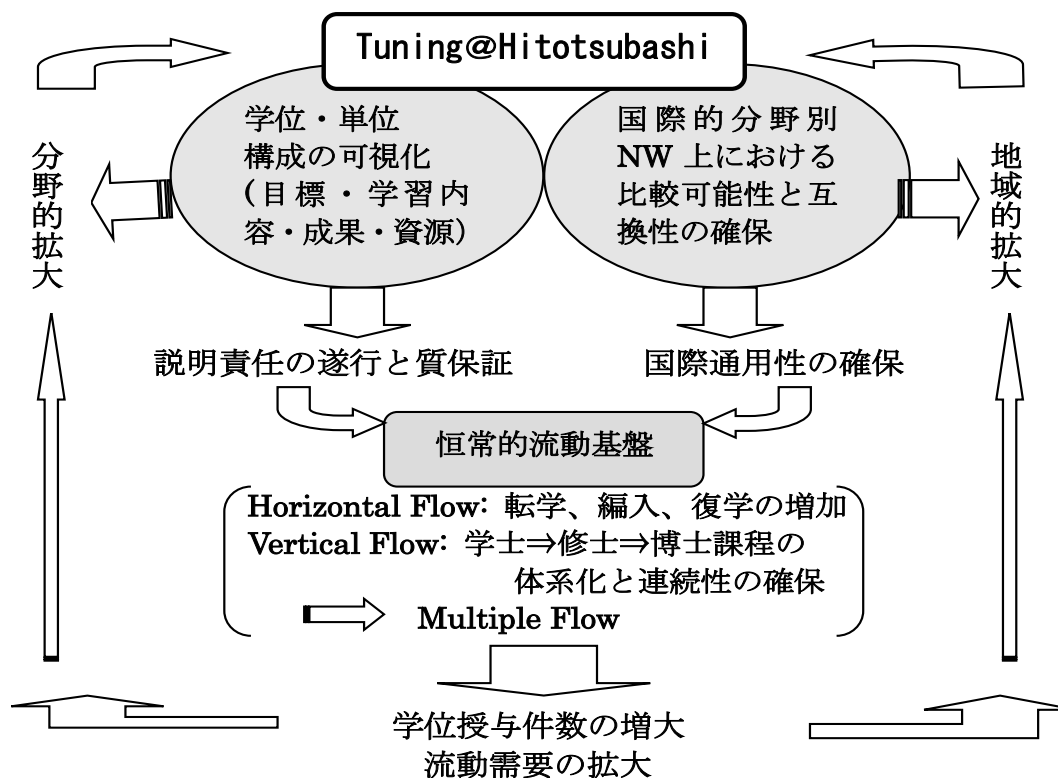
### なぜ今、チューニングなのか

- ◆ 学習内容と、その成果の「可視化」  
⇒ 評価の透明性確保と説明責任の遂行
- ◆ 単位と学位の質保証
- ◆ 「特徴」の認識と強化
- ◆ 単位累積・加算を促進する基盤整備
- ◆ 社会人学生のBack to School機会の向上
- ◆ 国際交流とモビリティの促進
- ◆ カリキュラムの国際的通用性と認知度の確立

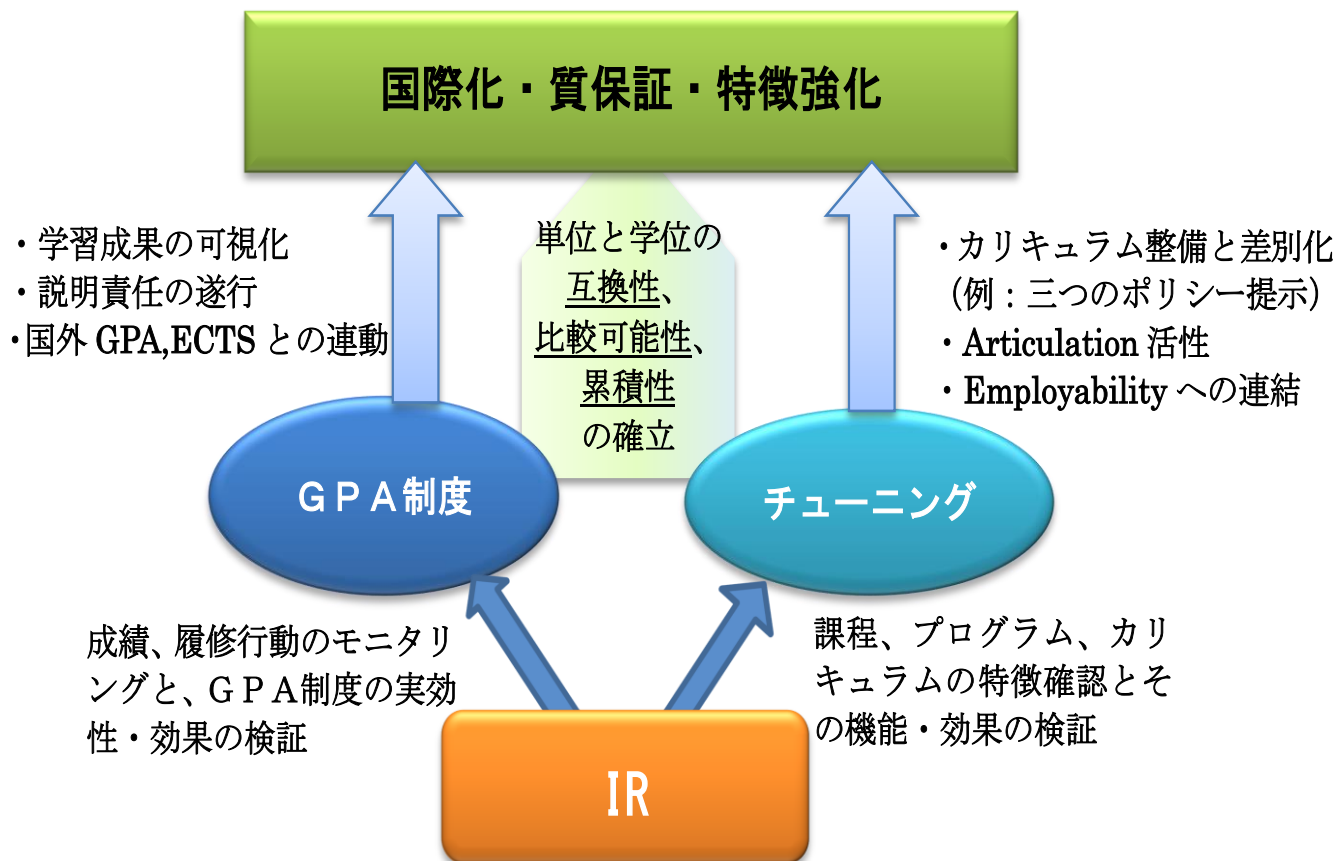
# Ⅲ 一橋大学のチューニング

## なぜ今、チューニングなのか

チューニング、質向上、流動化、高質な学位授与の流れ



# IV GPA制度・チューニング・IR — 連動性 —



# おわりに

- 大学の教育理念を支える資源形成
- 特徴強化と基準対応
- 機能別分化と多様性の尊重
- 組織間連携、地域連携、国際連携  
（内と外との境界線）
- de fact standardとの向き合い方
- 「質」の概念の整理